

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年2月16日(水)

### 《何か見えるか》

#### 主の平和

福音に入る前に聖書の簡単な常識について習いましょう。今日の創世記(8・6-13、20-22)を見て下さい。『ノアが601歳の時』という表現がありますね。創世記には歳について500歳以上、700歳、800歳と載っていますが、その時代、寿命がそんなに長がかったのでしょうか。私は、聖書の中で創世記は歴史的なことを書いたのではなく、時代の必要性、要求に合わせて色々な人間が感じている質問に対しての答えを求めた内容が載っていると何回も申し上げて来ました。ですから創世記は説話なのです。イスラエル人の土台にすでにあった伝説とか、或いは逸話、自分達が考えている色々な神学的な質問とか、答えをそこにつけて聖書の創世記が誕生したことを説明してきました。旧約聖書の中で一番遅く書かれたもののひとつが、この創世記であると申し上げて来たことを皆様は覚えていらっしゃると思います。とにかく、これもひとつの質問とか反省が含まれている内容です。

ごく最近まで還暦になると長生きしたと言われていたのですが、今ではもう還暦のお祝いは誕生日のようなものになって来た時代です。イスラエルのこの聖書が書かれた時代はもっと寿命が短かったのでしょうか。大体50歳位。今もアフリカなど環境的に厳しいところでは平均寿命が45歳~50歳のところが結構あります。その昔は、今のように優れた環境ではなかったと思いますので、人間の寿命が短かったのです。なぜ人間はこのようにすぐ去ってしまう人生を送らなければならないのかという質問が出たのでしょうか。昔、神様の話をちゃんと聞いたその時代には、人間は何百歳までも生き残った。しかし人間は罪を犯したのでこのようになってしまった。だから私達が長生きしようとするれば、神様にちゃんと従わなければならないということを話しているのです。

さあ、今日の福音(マルコ8・22-26)に入りましょう。登場人物は目が見えない人でした。そしてイエス様がその目が見えない人に唾をつけて『何か見えるか』とおっしゃいました。このイエス様の質問について黙想しましょう。

皆様には「何が見えている」のでしょうか。ちゃんと見ていらっしゃるのでしょうか。いつも幻ではなく本物が見えているのでしょうか。皆様が正しく思っているものが本当のものなのでしょうか。

さあ、私達がいつも考えなければならないのは人間には色々な目があります。肉体の目もあるし、精神の目もあるし、心の目もありますが、カトリック信者として私達がいつも持たなければならないのは靈魂の目です。私達はどのくらい、靈魂の目で物事を見ようとしているのでしょうか。実際何パーセントくらい靈魂の目で見えているのでしょうか。

では靈魂の目と肉体の目の違いは何でしょうか。肉体の目は、普通に目に入るものを見ることですよ。靈魂の目は見えないことまで見る目です。神様の御心が基準になって、その教えに従いながら

その目で見ようとする心、それが霊魂の目ではないかと思います。いらぬことに心崩して、そして憎しみに囲まれて、本当に何の役にも立たない、そういうことに命をかけてしまうこの世の中。もちろん私達の霊魂の目が開いたら、ある意味では聖人になれる可能性があるかも知れません。結局聖人と言われる人々、殉教された素晴らしいその魂を持っていた人々、その人々は霊魂の目で全てのことを見ていたのでしょう。ですからその贈り物として、色々な虚しさを越えられたと思います。私達も普段、普通に一日を終えることが出来ても、いつも霊魂の目のために頑張らなければならないと思います。

私は、10数年前になるでしょうか。欠損になっている子供達に触れ、1年間一緒に過ごした時期がありました。生き方が難しかった時には、私は「頑張ってあなたたちはこのようにすれば乗り越えられるよ。」と色々な導きをしたのですが、結局あきらめて崩れてしまった子供達がありました。もちろん乗り越えられた子供達もいました。外れてしまった子供達は「これだけ乗り越えられれば楽になるけれど」という気持ちがあったのに失敗してしまって、闇の世界に入ってしまった子供達も結構いました。ある意味でこのような話を聞いたら私達は心を痛めます。しかも神様の目で見ますと、私達もこの様な子供達とたいして違わないのではないかと思います。

いつもいい話、素晴らしい心、全部聞きながら実際の生活の中で、暮らしの中で、そういう生き方が出来なかつたら、神様の目では虚像に見えるのではないかと思います。皆様が「何が見えてるか」とイエス様に尋ねられて「私はあなたの御心がみえます」と告白出来る私達の生き方になっていただきたいです。この様な感じで、私達が全てを見ることができれば「生」も「死」も一目である程度、理解が出来るようになるのではないかと思います。

ありがとうございました。